

2 1 世紀の日本のかたち（35）

複眼からの東アジア共同体構想



戸沼幸市
＜(財)日本開発構想研究所 理事長＞

1. これから100年、大学は？

「日本の大学はこれまでの100年、欧米を翻訳してきました。二十一世紀、これからの100年は、東洋、アジアの地平から自らの情報を世界に発信する時代です。

第二世紀の日本の大学は、グローバル（グローバル＋ローカル）ユニバーシティとして、日本という国家の枠をはずし、多様な視点から東アジア共同体の構築に向けて大きく動くべきです。これには大学の若い人々の実践的参加が期待されているのです。」

上記は、早稲田大学建築学科が今年、創設100周年を迎え、これまでの100年を総括し、これからの100年、大学がいかにあるべきかを問いかけてきたアンケートに答えた私の一文です。

振り返ってみると大学は全体として欧米を手本として、日本がこれに追いつくという筋書きの中にいたという感想を持ちます。

早稲田大学に限らず東京帝国大学をはじめとする明治初年に設立された日本の大学は、多かれ少なかれ先進国、欧米をモデルとし、教育や大学のかたちをつくってきました。

1868年江戸から明治へ、鎖国日本が世界に開国し、欧米モデルの近代国家を構築する時代に大学が併走してきたことと重なります。

日本の明治、大正、昭和前期（戦前）は、「欧

米列強に追いつけ追い越せ」のスローガンの元に、殖産興業・富国強兵を目的として、近代産業の育成を図りましたが、第二次世界大戦においてアジアに大きな悲劇をもたらし、破産しました。

代わって、戦後の日本はアメリカをモデルに民主主義国家として再出発することになりました。

戦災復興からGNP世界第2位の経済大国へ、この50年間日本は世界の奇蹟とまでいわれるほどの復活を遂げました。大学もこれを下支えしてきました。

さて、9.11アメリカ同時多発テロ事件によって幕開けした21世紀、アメリカ発の経済危機が世界に広がり、アメリカモデルが少なからず破綻し、アメリカ自身、再生の苦悩の中にあります。地球が経済などグローバル化する中で、ヨーロッパ諸国もEU（欧州連合）というかたちで結集し、その存在を主張しています。

また、欧米先進国をキャッチアップした日本ですが、もはや先進モデルはなく、独自に方向を見つけるほかない事態に直面しています。

まず、日本国家、国民の基本である人口動態に有史以来の劇的人口減少が始まっています。日本の人口は2050年で1億人、2100年で数千万人という推計がなされています。

人口減少、少子高齢化時代を大学問題としてみれば、18才人口の激減であり、大学の縮退が余儀

なくされる事態です。加えて、日本経済の停滞の中で、新卒者の就職難の昨今です。これもあってか、日本の学生の欧米への留学熱が冷え込んでおります。

一方、アジア、東アジアからの日本への留学生が増加しているのです。早稲田大学の場合、現在(2010年)4,000人の留学生がおり、さらなる増加傾向にあります。

人口動態を人間活動、活力のバロメーターとしてみれば、日本が含まれる東アジア地域は世界有数の人口増加地域です。これに隣接するインドはまた強烈に人口増を続けています。

アジアに、日本の縮退を飲み込むダイナミックな人間居住が出現しつつあるのです。

将来人口の推計

	2000年	2050年
ASEAN	5.2	7.7
中国	12.7	14.0
日本	1.3	1.0
韓国	0.5	0.4
計	19.7	23.2
インド	10.5	16.5

単位:億人

資料: United Nations Population Division

「これから100年、大学は？」という設問に対し、21世紀人を育てるべき大学は、かつての欧米的視点とは別にアジアの視点から世界を問い直し、日本をダイナミックに位置付け、より大きな枠組みの中に自らの役割を演ずべしと考えるのです。

その際、地球地域における東アジアという固有の風土に基礎づけられた一つの文明圏の新しいかたちづくりに、日本は一役買うべきではないかと考えるのです。

2. 東アジア共同体構想

国会での菅総理の所信表明演説 (H22. 10. 1) の

柱の一つに「東アジア共同体構想の実現を見据え、国を開き具体的交渉を一步進める」とありました。これは前鳩山政権の打出した東アジア共同体構想を引継ぐものと受取ることができます。

鳩山前総理は昨年の国会所信表明演説 (H21. 10. 26) において、東アジア共同体構想を推進すると述べ、また、今年1月の通常国会 (H22. 1. 19) において、東アジア共同体のあり方として、数千年にわたる文化交流の歴史を発展させ、「いのちと文化の共同体」を築き上げたいと重ねて表明しました。東アジア共同体構想の内容については、政府として様々なレベルでメニューが出されています。

大学関連では、政府は2020年を目途に留学生30万人を受け入れるとし、3年前からアジア各国から毎年6,000人の人材を招聘する事業を始めており、これを将来も継続するとしています。

この点に関していえば、すでに日本において、大学などに様々なかたちで東アジア共同体が生まれています。私の場合についていえば、学生時代を含め、欧米、ロシア、オーストラリア、南米、そして多くはアジア—韓国、台湾、中国、インドネシア、マレーシアなどからの留学生と学習・研究の時間を共有しました。留学生諸氏は日本の企業に就職したり、国に帰り大学で教授になったり活躍しております。

同級生の結婚式にはソウルや上海からも日帰りで東京に集まります。

最近はまだ、日中、日韓、日台の大学間交流協定、単位互換制度の話題が多くなり、その橋渡しを頼まれることもあります。私のまわりの小さな東アジア共同体です。

3. 東アジアの国々

東アジア共同体を構成すると考えられる国々の

中核的グループはASEAN（東南アジア諸国連合）です。

ASEANは現在インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、シンガポール、ブルネイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムの10か国で構成されています。大陸から突き出したインドシナ半島、マレー半島、そして海洋群島国家群は実に多様な人間の居住領域です。主要4島からなる日本列島もこれに連なっています。

ASEANのいくつかの地域・国土計画の関係者と意見を交換しましたが、計画のねらいは時代状況に合わせて国民の生存と生活を守り、これを多様性を組み込んで持続成長させるということでした。（注）

現在、東アジア共同体の枠組みとして考えられているのが、1997年ASEAN創設30年に日・中・韓の3国首脳が招待された東アジア会議—ASEAN+3の国々です。

このうち、中国は面積、人口ともにとび抜けて巨大です。私が初めて中国を訪れたのは1982年でした。中国日本友好協会から招待された早稲田大学訪中団に加わり、中国大陸を2週間ほど見学する機会を持ちました。

日中国交回復から10年、中国の長大な歴史を垣間見ながら、北京、西安、上海、そして素朴な農村の人々の生活に接したことでした。これに対し、日本をはじめ外国からの投資を呼び込んで、強烈な市場経済が広がるこの数年来の中国の激変には驚かされます。「和諧社会（調和のとれた社会）」「包容的成長（経済、政治、文化、社会、環境など各方面を配慮しそれらの協調を図る成長）」を目指す中国「第12次五か年計画（2010年-15年）」の行くえが注目されます。

韓国には50年来の友人が多く、相互訪問をしている私にとっては最も身近な隣国です。韓日の複

眼で見える東アジアの風景があります。それにしても南北の分断を抱えつつ、最近の韓国の世界への働きかけには目を見張るものがあります。

東アジア会議には5年前、インドとオーストラリアが加わり、さらに来年にはアジア太平洋でクロスするアメリカと北東アジアの一角を占めるロシアが参加するとされています。

21世紀、東アジアが地球の前面に押し出されてゆく観があります。グローバルな諸ネットワークの交叉する東アジア共同体のイメージが浮かびます。

4. 複眼からの東アジア共同体構想

地球における人間居住の枠組みとして、地理的境界をもつ国家があり、一方、地球上のモビリティはますます高まり、国家間の人間の移動・移住の増加を止めることは不可能です。この常態において国境をめぐる紛争が絶えるとは考えにくいのです。これに平和的な折り合いを付けることは国家の役目にちがいません。

21世紀前半、東アジア共同体構想に求められるのは、国家間のモビリティの高まりの中で国境線を柔軟化して、国家という人間居住の枠組みを問い直し、人々の出入り自由な国家連合の枠組みに見通しを立てることです。この点についてはEUがよい参考事例です。

東アジア共同体構想については、政治、安全保障、経済について新しい仕組みを創造し、そしてその土台となるこの大地域の人間居住環境を安全に持続させるために、気候変動、環境問題、災害問題などに協力して対策を講じなければなりません。いずれも多様な位置、立場を交換した複眼的視点からの国を超えた取り組みが必要です。

共存共生の共同体の中には共苦も入ると思うのです。

日本開発構想研究所では、この数年来、国土交通省の委託を受け、EU諸国とアジア諸国の国土政策について調査研究を続けております。これまでの成果は、各国の国土政策「An Overview of Spatial Policy in Asian and European Countries—Publication (財) 日本開発構想研究所」にまとめております。

私どもの関係分野である地域国土計画について、継続して情報を集め、関係諸国の専門家と議論を重ねつつ東アジア地域の学生、研究者、実務家のための充実した参考書づくりをしたいと考えております。

それにしても、私自身、アジア、東アジア地域についての知見、知識の貧弱さを思い知らされます。

東アジア共同体構想は、過去（歴史）、現在（課題）、未来（構想）、と広範な「東アジア学」の学習が必要です。

さて、「これからの100年、日本の大学は？」という問いに戻っていえば、内なる共同体を広げつつ、世界文明のおしくらまんじゅうの構図に重ねて、ダイナミックな21世紀の日本のかたちづくりと一体となる「東アジア共同体構想」に、実践的に取り組んでももらいたいと願うものです。

注：理事長の部屋「21世紀の日本のかたち（14）— 群島国家の国づくり」

(2010. 11. 15)

図1 東アジア共同体を含む文明圏（数字は2050年の予想人口）

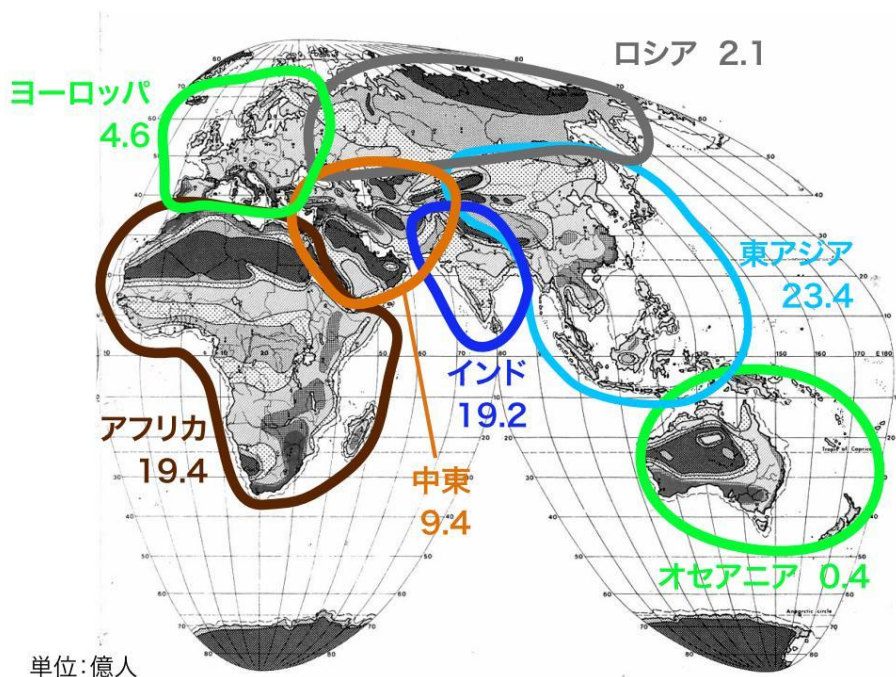
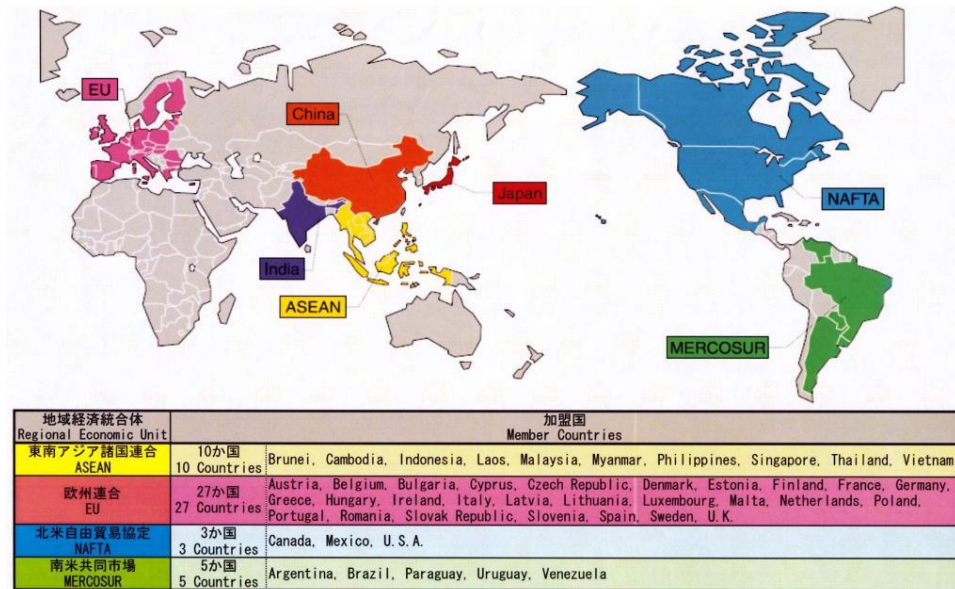
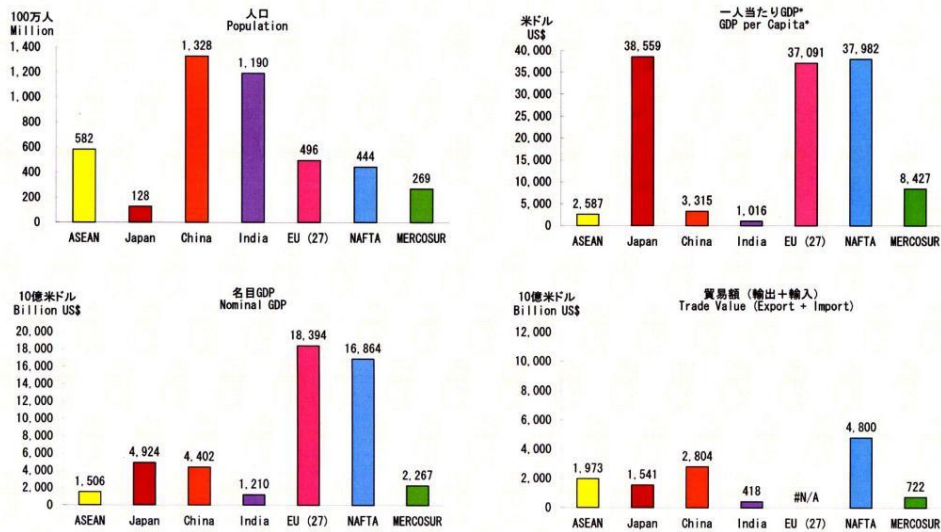


図2 ASEANとその他の国・経済統合体との基礎データの比較-1 (2008年)



資料:「ASEAN 日本統計集 基礎経済データ」日本アセアンセンター
<http://www.asean.or.jp/ja/asean/known/statistics/2.html>

図3 ASEANとその他の国・経済統合体との基礎データの比較-2 (2008年)



Source: World Economic Outlook Database, April 2009 (Website of International Monetary Fund)
 Direction of Trade Statistics August 2009 (Website of International Monetary Fund)
 Note: *推定値を含む。
 *ASEAN, EU, NAFTA, MERCOSURの一人当たりGDPは、名目GDPを人口で除して当センターで試算。
 Including estimated figures.
 *GDP per capita for ASEAN, EU, NAFTA, MERCOSUR are calculated by the ASEAN-Japan Centre by dividing nominal GDP by population.

資料:「ASEAN 日本統計集 基礎経済データ」日本アセアンセンター
<http://www.asean.or.jp/ja/asean/known/statistics/2.html>

図4 アジア

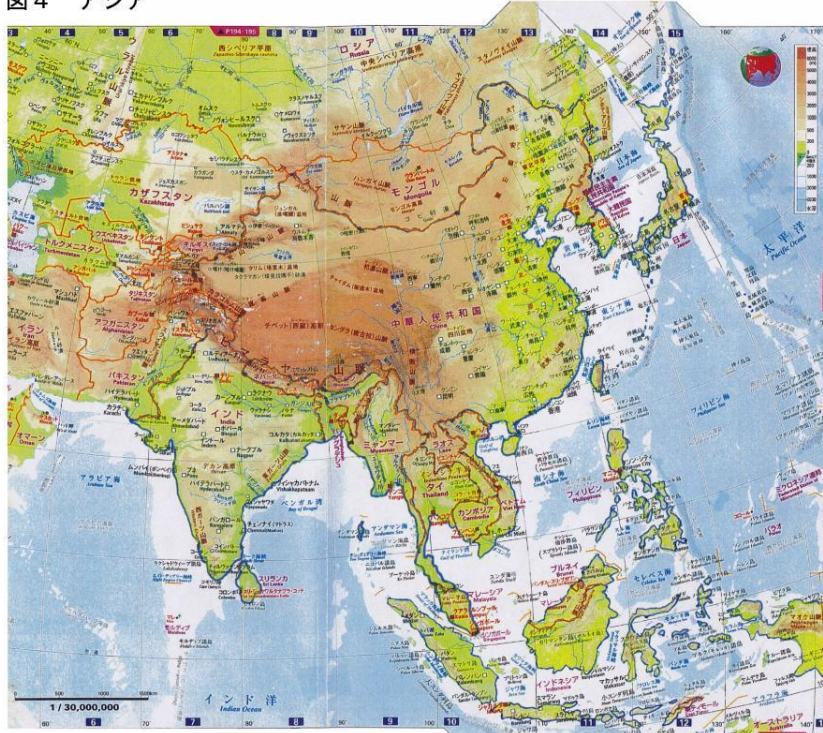
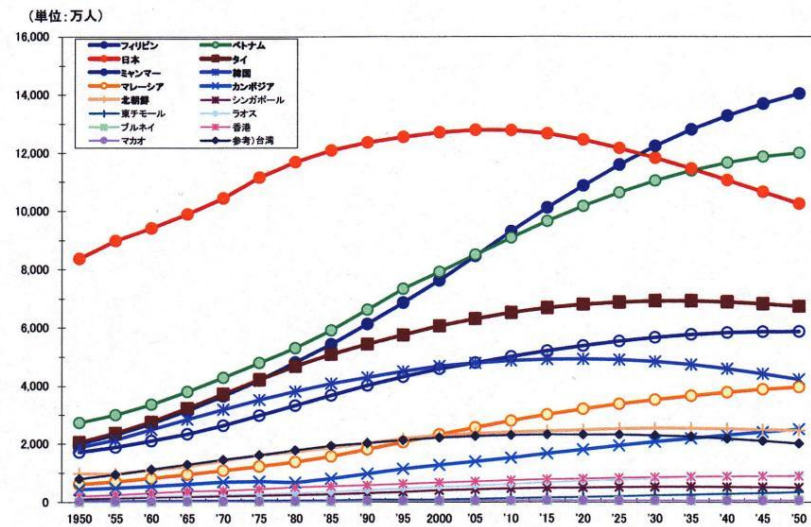
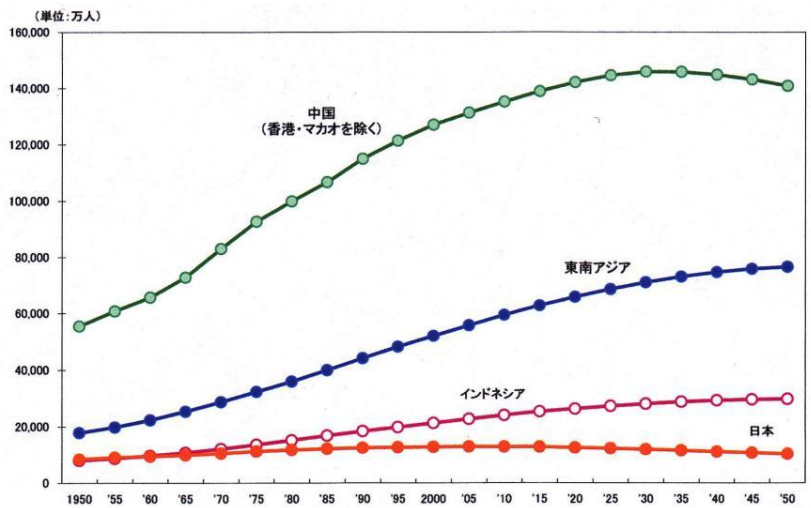


図5 東南アジア・東アジアの人口実績と将来推計人口



資料: 台湾以外は, Population Division of the Department of Economic and Social Affairs of the United Nations Secretariat, World Population Prospects: The 2006 Revision and World Urbanization Prospects
台湾は, U.S. Census Bureau, International Data Base.